

- 問1 平氏の栄枯盛衰を描き、琵琶法師によって語り継がれた軍記物語を何という？
- 問2 北条泰時が制定した御成敗式目の別称で、制定された年号に由来する呼び名を何という？
- 問3 『方丈記』において、乱世の出来事を通して描かれた仏教的な思想を何という？
- 問4 日蓮が仏教の真の教えが記されていると説いた経典の名前は何という？
- 問5 鎌倉時代、将軍が御家人に対し、本領を安堵したり新領地を与えたりすることを何という？
- 問6 鎌倉幕府において、御家人の統制や軍事・警察を担う「侍所」を設置した初代将軍は誰？
- 問7 東大寺南大門の金剛力士像などを制作した、鎌倉時代の有名な仏師は誰？
- 問8 13世紀にモンゴル高原を中心に勢力を拡大し、フビライ・ハンが建てた帝国を何という？
- 問9 鎌倉時代に御家人が負担した、戦いのための動員や役務を何という？
- 問10 1274年にモンゴル帝国が初めて日本を襲撃した戦いを何という？
- 問11 鴨長明が乱世における世の無常を記した、日本三大随筆の一つとされる作品を何という？
- 問12 浄土真宗で重要視された、自分の修行力ではなく、阿弥陀仏の力によって救われるという考え方を何という？
- 問13 鎌倉時代、税として年貢が徴収されていた土地の種類を何という？
- 問14 13世紀後半、モンゴル帝国による二度の襲来を受けた出来事を何という？
- 問15 1232年に日本初の武家法である『御成敗式目』を制定した、鎌倉幕府の第3代執権は誰？
- 問16 『平家物語』を琵琶を弾きながら語り歩き、物語を全国に広めた人を何という？
- 問17 鎌倉幕府において、将軍が御家人の何を守る（安堵する）ことを根拠とした主従関係を「御恩と奉公」という？
- 問18 1281年にモンゴル帝国が二度目に日本へ襲来した戦いを何という？
- 問19 鎌倉時代後期に、困窮して幕府の支配に抵抗するようになったかつての幕府の味方は誰？
- 問20 鎌倉時代に広まった仏教の新しい宗派の一つで、ひたすら座る修行を行うことを重視した宗派を何という？
- 問21 鎌倉幕府が、年貢の徴収や土地の管理、治安維持のために各地に置いた役職を何という？

答え合わせ・解説

問1	答え 平家物語	『平家物語』は、平氏一族の栄華から壇ノ浦での滅亡までを描いた文学作品です。「祇園精舎の鐘の声」という有名な書き出しで始まり、無常観あふれる物語として広く親しまれました。盲目の琵琶法師が琵琶を奏でながら語り伝える形式で広まったため、多くの人々に愛唱されました。
問2	答え 貞永式目	制定された1232年の元号が「貞永」であったため、御成敗式目は「貞永式目」とも呼ばれます。特に、守護の権限を警察・裁判権に限定する「大犯三箇条」などが規定され、御家人の権利を守る内容が含まれていました。
問3	答え 無常観	無常観とは、この世のすべての存在は常に変化し、永遠に続くものはないという仏教の教えです。鴨長明は『方丈記』の中で、京都の大火や地震などの惨禍を描き出し、人間の力ではどうしようもない儚さを無常観として表現しました。
問4	答え 法華經	日蓮は、数ある經典の中で『法華經』こそが釈迦の教えの真髄であると主張しました。この經典を信じ、「南無妙法蓮華經」という題目（唱える言葉）を唱えることが、人々の救いにつながると説いたのです。
問5	答え 御恩	御恩は、主従関係の基盤であり、将軍が家臣（御家人）に対して「本領安堵（もともとの領地を認める）」や「新恩給与（手柄に応じて新しい土地を与える）」を行うことです。これに応じて御家人は奉公を行うというセットの仕組みにより、幕府は全国の武士を統率していました。
問6	答え 源頼朝	1185年に鎌倉幕府の主要な機関として「侍所」を設置しました。侍所は御家人の統制や軍事・警察を担当する組織で、初代の長官（別当）には和田義盛が任命されました。これにより、全国の御家人が将軍の指揮下に入る体制が整いました。
問7	答え 運慶	「運慶」は、奈良の東大寺南大門に安置されている巨大な「金剛力士像」を、快慶とともに制作した仏師です。筋肉の動きや表情までリアルに再現する写実的な作風は、当時の人々に衝撃を与えました。
問8	答え モンゴル帝国	五代皇帝フビライ・ハンは、都を現在の北京である大都に移し、中国全土を支配下に置くために国号を「元」と決めました。このモンゴル帝国は、東西の交通路を整備し、シルクロードを通じた交流を活性化させました。また、強大な軍事力を持って周囲の国々に服属を要求しました。
問9	答え 軍役	軍役は、御家人が「奉公」として果たさなければならない主要な義務です。戦が起きた際に手勢を率いて駆けつけたり、京都や鎌倉の警備に当たったりすることが求められました。これは御恩に対する見返りであり、御家人の家格や領地の広さに応じて課されることが一般的でした。
問10	答え 文永の役	この戦いは文永の役と呼ばれ、元軍は対馬や壱岐を占領した後に博多湾に上陸しました。日本の武士は集団戦法を用いる元軍に苦戦しましたが、嵐の影響などで元軍が撤退したため、大きな戦禍は最小限に留まりました。
問11	答え 方丈記	『方丈記』は、こうした激動の時代を生きた鴨長明による随筆です。作者自身が世俗を離れて山の中に住まい、人々の苦しみや災害の恐ろしさ、そしてこの世がいかに儚いものであるかを鋭い洞察で綴っています。「ゆく河の流れは絶えずして」という有名な冒頭文は、鎌倉時代の文学を象徴する無常観を端的に表しています。
問12	答え 他力本願	他力本願は、自分の力で修行（自力）に頼るのではなく、すべてを阿弥陀仏の力（他力）に任せて救いを求める考えです。親鸞はこの姿勢こそが真の信仰であると説き、出家せずただ念仏を唱えるだけで救われる道を提示しました。
問13	答え 荘園	荘園は、貴族や有力な寺社などが所有する土地で、そこから上がる収益が当時の支配階級の重要な経済源でした。鎌倉幕府が成立すると、幕府は各地の荘園にも「地頭」を配置し、年貢徴収や管理の権限を握りました。これにより、それまでの公領（朝廷直轄地）と並び、武士の支配対象となりました。
問14	答え 元寇	1274年の「文永の役」と、1281年の「弘安の役」の二度にわたり、元軍が日本に襲来しました。幕府は御家人を動員して防戦し、九州各地で激しい戦いが繰り広げられました。特に弘安の役では、日本側が築いた石築地などの防衛と暴風雨も重なり、元軍は退却しました。
問15	答え 北条泰時	北条泰時は、御家人の利益を守り、争いを解決するために「御成敗式目」を制定しました。これは武士社会の道理に基づいた最初の法律であり、裁判の公平性を担保する役割を担いました。
問16	答え 琵琶法師	琵琶法師は、琵琶の音色に合わせて、平氏の栄華と滅亡をドラマチックに語り伝えました。彼らが語る物語は、合戦の様子や英雄たちの活躍を生生きと描き出したため、武士だけでなく、一般の民衆の間でも熱狂的に受け入れられました。
問17	答え 土地	将軍は御家人の領地（本領）を「安堵（保証）」し、時には新しい領地（新恩給与）を与える「御恩」を与えました。一方、御家人は戦いの際に軍役に従事したり、幕府の警備をするなどの「奉公」を行いました。
問18	答え 弘安の役	1281年、元軍は再び大軍を率いて九州へ攻め寄せました。これが弘安の役です。幕府は事前に築いていた防壁や備えによって防戦し、元軍の上陸を阻みました。また、暴風雨により元軍の船団が壊滅的な被害を受けたことで、幕府軍の勝利が確定しました。
問19	答え 御家人	経済的に追い詰められた御家人は、借金を重ねるなどして没落していきました。その結果、一部の御家人は荘園領主の土地を奪ったり、幕府の命令を無視して年貢の徴収を妨害したりする「悪党」となりました。この存在は、鎌倉幕府の支配体制が全国的に崩壊しつつあることを象徴しています。
問20	答え 曹洞宗	曹洞宗は、宋から帰国した道元が日本に伝えた宗派です。特定の經典や修行にとらわれず、ただひたすらに座禅を組む「只管打坐（しかんたざ）」を修行の中心に置きました。この教えは、地方の武士や農民にも広く浸透していきました。
問21	答え 地頭	地頭は、荘園や公領において年貢の取りまとめや土地の管理を行いました。また、治安維持や裁判の補助を行う警察的な役割も担うようになり、次第に現地の武士として強い権力を持つようになりました。